

1. 第3次総合計画における施策の体系

目指す都市像 (政策)	番号	5	名称	人と文化がふれあうまち			
施策	番号	1	名称	文化財の保護と活用			
主担当部	生涯学習部		主担当課	文化財課		部長名	田原勝則
関係部	総合政策部		関係課	企画政策課 世界遺産推進課 歴史に憩う檀原市博物館			

2. 施策の基本方針(第3次総合計画の基本方針をもとに記入する)

この施策の目的	市民や来訪者が、世界遺産登録を進めている資産をはじめとする本市の豊かな歴史遺産との出会いにより、歴史や文化の価値を学び、体感できるまちを目指す。そのために、本市を特色づける貴重な歴史遺産を適切に維持管理し、将来にわたって良好な状態で保存し、活用を進めることで、市民や来訪者にとって歴史遺産が身近な存在であることへの理解促進と愛護意識を高めていく。
---------	---

3. 施策の現状分析(第3次総合計画の現状と課題をもとに記入する)

この施策の概況	この施策に対する市民ニーズなど、 具体的な事項について	社会環境や国・県の動向など、 施策を取り巻く環境について
	発掘調査成果や博物館での展覧会・イベント、世界遺産等についての問い合わせが増加しており、文化財の公開、史跡整備の早期実現化、博物館での展覧会やイベント内容への要望が多く寄せられている。これらのニーズに応えるためには国内外に向けて文化財の重要性を発信する啓発活動、調査成果の公開活用、市民や来訪者がより快適に学び、交流できる環境整備が必要である。	国・県からの助成を受けて実施している事業については、年々財政状況の悪化から財源確保が困難な状況である。また、国は文化財の適切な保存とともに、まちづくりや地域活性化の資源とする保存活用施策を推進しており、本市においても史跡の整備、歴史遺産の特性を活かした、文化財活用の取組や博物館など情報発信拠点の効果的運用が求められている。
これまでの成果	史跡植山古墳の整備は、平成26年度に実施設計が完成し、整備工事に向けて関係機関等と協議を進めている。そのほか、世界遺産候補地をはじめとする史跡・名勝を将来へ継承していくため、保存管理計画の策定を文化財審議会第2部会に諮問し、検討を進めている。また博物館では、多くの人が檀原市の歴史への理解を深め、文化財と触れ合う場を提供している。	

4. 指標及びコストの推移

	名称及び単位等	25年度	26年度		27年度	28年度	29年度 (総計目標年度)	備考欄	
		実績	目標	実績	目標	目標	目標		
指標の推移	施策指標① (成果指標)	特別史跡藤原宮跡の国有化(単位:㎡)	500,193	508,206	507,384	518,741	529,000	549,000	
	施策指標② (成果指標)	史跡丸山古墳の公有化(単位:㎡)	61,231	65,596	65,682	66,168	66,267	73,946	
	施策指標③ (成果指標)	歴史に憩う檀原市博物館入館者数(単位:人)		10,000	10,236	10,000	10,000	10,000	講演会等参加者1,789人を含む。
	施策指標④ (成果指標)								
	施策指標⑤ (成果指標)								
コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算			
	歳出 (直接事業費)(a)		254,493	342,248	280,446	277,370			
	歳入 (b)	受益者負担額	19,028	95,431	17,418	68,179			
		受益者負担額以外の歳入(補助金等)	59,292	108,811	106,236	94,552			
	(a) - (b) = 一般財源		176,173	138,006	156,792	114,639			
	正職員	従事者数 (単位:人)	14.75	14.60	14.30	14.45			
		人件費(c)	91,037	94,900	92,950	93,925			
トータルコスト (a) + (c)		345,530	437,148	373,396	371,295				

5. 施策の評価

有効性の評価	この施策の成果の達成度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	成果向上の可能性はどうか	1	1 十分ある	2 ある程度ある	3 あまりない	4 ない
	説明	史跡の保存整備活用事業の着手に向けて、計画に沿った公有化が進んでいる。また博物館の入館者数も目標数に達している。				
	市政全般に対する貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	説明	史跡地の公有化を進めることにより、史跡の保存整備活用事業が実現に向け、前進している。また世界遺産登録や本市の史跡の整備の実現が早ければ早いほど、本市の史跡の活用事業の推進に大きく寄与することができる。博物館の常設展や特別展・企画展、講座等を通じて、日本国内の文化財と本市の文化財との関わりを広く啓発していった結果、本市の豊かな歴史遺産への理解と愛着が深まりつつある。				

6. 施策の課題

この施策の課題	史跡の保存整備活用事業を実施するには、史跡地の公有化が不可欠である。公有化を進めるには地権者の理解と協力、財源確保が前提であり、加えて公有化必要面積が広大であるため、公有化完了まで長期間を要する。本市の文化財への関心・理解をより多くの人に深めてもらうため、博物館への入館者数拡大が必要であるが、特別展・企画展やイベントの定期的な開催のための学芸員の人員が不足している。
---------	--

7. 次年度以降の施策の方向性

総合評価 1次評価	次年度以降の方向性	1	1 強化する	2 維持する	3 縮小する
	説明	史跡地の公有化を継続的に進めるため、地権者との交渉と財源の確保に取り組む。世界遺産登録に向けての機運醸成や博物館での市民や来館者に親しまれる展示等を通して、文化財愛護の意識向上を進めていく。			
総合評価 2次評価	次年度以降の方向性		1 強化する	2 維持する	3 縮小する
	説明				

8. 構成事業の方向性（それぞれの事務事業における今後の最適手段を検証する）

1次評価	説明	本市の豊かな歴史遺産を守り伝えるため、史跡の整備・保存・管理に係る事務事業は拡大していく。また、世界遺産登録や文化財愛護の意識向上のための啓発活動を継続し、博物館においては、文化財への関心・理解を多くの人に深めてもらうために、特別展やイベントなどの活用事業を拡大する。
2次評価	説明	

9. 施策を構成するそれぞれの事務事業の評価

※下記評価の解説

- ・貢献度—事務事業評価の結果をもとに、この施策での貢献度(重要度)を絶対評価で示しています。
(a: 不可欠かつ施策の中核をなす事業、b: 不可欠な事業、c: 不可欠ではないが実施が望ましい事業、d: あまり有効ではない事業)
- ・方向性—事務事業評価の結果をもとに、この施策からみた各事務事業の今後の方向性を絶対評価で示しています。
(拡大する、見直しながらかつ続ける、縮小する、廃止又は休止する、完了する)
- ・優先度(ソフト事業(任意)のみ)—施策内での事務事業の優先度を相対評価で示しています。
(優先度が高い順に A、B、C、D)

この施策に関連する事務事業評価の内容(評価内容の転記)				施策評価		
NO.	課名、事務事業名及び事業種別	事業の内容	事業の方向性及びH26決算額	貢献度	方向性	優先度(ソフト任意)
1	企画政策課	<ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産PR看板の掲出(全9回) ・橿原市のPR活動(全6回) ・エスコートキッズ及び試合観戦者招待(全2回) ・ピッチサイドツアー(全2回) ・所属選手全員によるトークショー及びサッカー教室の開催(年1回) ・所属選手による橿原市および世界遺産のPR(年10回) 	2 現状のまま継続	b	見直しながらかつ続ける	D
	世界遺産登録推進事業 (ソフト(任意))		2,904 (千円)			
2	世界遺産推進課	「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」と国内の類似世界遺産との比較研究等を推進協議会で行った。藤原宮跡の資産価値とその完全性を高めるため、地権者に理解と同意を得て史跡拡大を推進し、平成27年3月10日付で追加指定を行った。東京国立博物館への出展・広報連載・パネル巡回展等を通じて啓発活動を実施し、市民を始め広く一般に飛鳥・藤原の資産の重要性についての理解促進に努めた。また世界遺産登録に向けての地域知名度アップを図るため、女子プロサッカーチームINAC神戸と業務連携し、ホームスタジアムでの世界遺産PR看板の設置やCM放映等を行った。	1 拡大する	a	見直しながらかつ続ける	A
	世界遺産登録推進事業 (ソフト(任意))		19,787 (千円)			
3	世界遺産推進課	特別史跡藤原宮跡内における買収を実施し、史跡地内の民有地の公有化を図る。特別史跡藤原宮跡内の約6.5万㎡を文化庁より占有し、平成18年度から地元5町の住民で構成される「藤原宮跡整備協力委員会」の協力を得て、春・夏・連・秋・朝堂院東ゾーンとして花の栽培を行い、橿原市HPや啓発用ポスター・チラシ等でそれらのPR活動を行うことにより、特別史跡藤原宮跡の知名度向上に寄与するよう努めている。また、橿原市藤原京資料室では藤原宮跡を紹介する展示(藤原京1/1,000模型等)を行い、史跡の重要性について周知・啓発を行う。	2 現状のまま継続	b	拡大する	C
	藤原宮跡等整備対策事業 (ソフト(任意))		31,219 (千円)			
4	文化財課	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財保護法に基づく手続きに係る事務処理。 ・土木行為者に埋蔵文化財保護についての理解と協力を求める。 ・発掘調査、試掘確認調査、立会調査の実施。 ・発掘調査出土資料の整理及び報告書刊行。 	2 現状のまま継続	b	見直しながらかつ続ける	
	埋蔵文化財発掘調査事務事業 (内部管理・維持管理)		57,778 (千円)			
5	文化財課	文化財審議会第1部会において、史跡整備における実施設計に関し、提言をもらう。指定文化財の修理に要する経費の補助を行う。公有化した史跡の草刈・倒木処理等維持管理を実施する。八木札の辻交流館の受付人員の配置や清掃等施設管理業務の契約を行い、適切に管理を行う。文化財の活用と保護の啓発のため、職員による出前講座等への講師派遣を行う。	1 拡大する	a	拡大する	
	文化財保護管理活用事業 (内部管理・維持管理)		138,792 (千円)			
6	歴史に憩う橿原市博物館	<ul style="list-style-type: none"> ・特別展や企画展等の活動を実施する。 ・出土した遺物等を適切な環境で保管・管理する。 	1 拡大する	a	拡大する	B
	博物館運営事務事業 (ソフト(任意))		29,966 (千円)			

事務事業評価表(平成26年度実施事業対象)

(作成日:平成27年6月5日)

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト(任意)) 事業

PLAN
計画

事務事業名	世界遺産登録推進事業						
担当部名	総合政策部	担当課名	企画政策課	課長名	庵坂 和史		
総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	5	人と文化がふれあうまち				
	施策	1	文化財の保護と活用				
予算事業名	スポーツ推進事業費						
事業の開始年度	平成	24	年度	事業の終了予定年度	平成	—	年度
対象	市民			事業の内容説明	<ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産PR看板の掲出(全9回) ・榎原市のPR活動(全6回) ・エスコートキッズ及び試合観戦者招待(全2回) ・ピッチサイドツアー(全2回) ・所属選手全員によるトークショー及びサッカー教室の開催(年1回) ・所属選手による榎原市および世界遺産のPR(年10回) 		
事業の目的	世界遺産登録に向けた啓発やPR活動を行うとともに、青少年の健全育成、地域の活性化を図る。						
妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業				
		2	2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)				
市の関与の必要性を評価してください	やめた場合の影響は	説明	世界遺産登録に向けた啓発・PR活動と、青少年の健全育成、地域の活性化を目指した事業であるため、市が関与することが望ましい。今後、さらに発展させるために手法を検討することも必要である。				
		2	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い	
		説明	世界遺産登録に向けた啓発・PR活動と、青少年の健全育成、地域の活性化に支障が出る。				

DO
実施

指標の推移	名称及び単位等	25年度	26年度		27年度	28年度	29年度 (総計目標)
		実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み
成果指標	サッカー教室参加者	177	150	161	150	150	150
活動指標①	エスコートキッズ参加者	44	44	44	44	44	44
活動指標②	市民招待デー参加者	305	200	170	200	200	200
コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算	/
	歳出(直接事業費)(a)		2,632	1,800	2,904	2,497	
	歳入(b)	受益者負担額					
		受益者負担額以外の歳入(補助金等)					
	(a) - (b) = 一般財源		2,632	1,800	2,904	2,497	
	正職員	従事者数(単位:人)	1.15	1.15	0.80	0.80	
		人件費(c)	7,098	7,475	5,200	5,200	
	トータルコスト(a)+(c)		9,730	9,275	8,104	7,697	
単位当たりコスト	計算式等 ()/()						
備考 (これまでの実績等)							

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要		
		説明	会場でのPR活動や、エスコートキッズ・試合観戦者招待等を実施することで、世界遺産登録に向けた啓発・PR活動と、青少年の健全育成、地域の活性化を図ることができている。ただ、応募者が減少しているため、広報の充実等により、市民が関心を持てる内容を提案していく必要がある。						
評価	効率性評価	現時点での有効性を評価してください	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い		
		説明	メディアを通じて全国的なPRすることで、世界遺産登録に向けた知名度の向上を図ることができる。またサッカー教室等の実施により、青少年の健全育成に貢献できる。						
ACTION	修正行動	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください	2	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない		
		説明	世界遺産登録に向けた啓発や榎原市のPR方法を工夫・改善することで、より効果的にPRできるように努める。また、市民招待及びサッカー教室等の実施を工夫・見直しすることにより、諸経費の削減を検討する。						
ACTION	修正行動	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。	INAC神戸との連携によるメディアを通じたPR効果を積極的に活用し、世界遺産登録に向けた気運を高めていく。また、エスコートキッズや試合観戦者招待及びサッカー教室等の参加者の増加を図ることで、青少年の健全育成に努めていく。						
		この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	4 廃止又は休止する	5 完了する	課内優先度
		説明	コストの削減と有効性の向上に努めながら、世界遺産登録に向けて継続して取り組んでいく。						

事務事業評価表(平成26年度実施事業対象)

(作成日:平成27年5月27日)

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト(任意)) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	世界遺産登録推進事業								
	担当部名	総合政策部	担当課名	世界遺産推進課	課長名	岸本 裕史				
	総合計画の 位置付け	目指す都市像(政策)	5	人と文化がふれあうまち						
		施策	1	文化財の保護と活用						
	予算事業名	世界遺産登録推進事業費								
	事業の開始年度	平成	19	年度	事業の終了予定年度	平成	—	年度		
対象	史跡等(構成資産)・市民(国民)			事業の 内容説明	「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」と国内の類似世界遺産との比較研究等を推進協議会で行った。藤原宮跡の資産価値とその完全性を高めるため、地権者に理解と同意を得て史跡拡大を推進し、平成27年3月10日付で追加指定を行った。東京国立博物館への出展・広報連載・パネル巡回展等を通じて啓発活動を実施し、市民を始め広く一般に飛鳥・藤原の資産の重要性についての理解促進に努めた。また世界遺産登録に向けての地域知名度アップを図るため、女子プロサッカーチームINAC神戸と業務連携し、ホームスタジアムでの世界遺産PR看板の設置やCM放映等を行った。					
事業の 目的	「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」の世界遺産登録を目指し、構成資産(史跡等)がもつ本質的価値を証明する範囲を定め、必要に応じて指定範囲の拡大を図る。また史跡等の保存管理計画の策定、更に史跡等の周辺環境を保全する緩衝地帯を設定し、世界遺産に相応しい資産を証明することを目的とする。									
市の関与の 必要性を 評価してく ださい	なぜ市が 関与して いるのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業 2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)							
		説明	奈良県・桜井市・明日香村と共に本市が世界遺産「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」の提案者であるため、「世界遺産推薦書」の提出には資産の完全性(史跡範囲の拡大)、保存管理計画の策定(地方公共団体が策定)、緩衝地帯の設定が義務付けられている。							
	やめた 場合の 影響は	1	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い				
	説明	本事業は、奈良県・桜井市・明日香村との共同提案であり、ユネスコもその価値を認め、平成19年1月には世界遺産暫定一覧表に掲載された。8年が経過し、推薦準備事業を一層推進しなければならない状況の中で本事業を取りやめることは、関係機関や世界、また期待をしている市民等に対する背任行為である。								
D O 実 施	指標の 推移	名称及び単位等		25年度	26年度		27年度	28年度	29年度 (総計目標)	
				実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み	
	成果指標	世界遺産登録		—	—	—	—	—	—	
	活動指標①	指定拡大達成率		80.0	80.5	80.7	81.0	81.5	82.0	
	活動指標②	広報掲載回数:年12回		12	12	12	12	12	12	
	コストの 推移 (単位: 千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算		
		歳出(直接事業費)(a)			16,949	25,808	19,787	21,164		
		歳入 (b)	受益者負担額							
			受益者負担額以外の歳入(補助金等)			4,000	5,400	3,900	4,550	
		(a) - (b) = 一般財源			12,949	20,408	15,887	16,614		
		正職員	従事者数(単位:人)			3.00	3.00	3.00	3.00	
			人件費(c)			18,516	19,500	19,500	19,500	
トータルコスト(a)+(c)			35,465	45,308	39,287	40,664				
単位当 りコスト	計算式等 ()/()									
備考 (これまでの 実績等)	登録推進協議会での推薦準備作業では、顕著な普遍的価値や構成資産の検討を重ねている。藤原宮跡では指定率の拡大が着実に進んでいる。世界遺産登録の普及啓発では、世界遺産「飛鳥・藤原」登録推進協議会事業、本市の集客イベントや刊物や啓発グッズの配布などで世界遺産登録PRを実施している。									

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要		
		説明	資産の完全性を高めるため史跡指定の拡大が必要不可欠である。藤原宮跡では多くの地権者の理解により、更なる範囲拡大が着実に継続できている。また、市民等への理解とその浸透を図るため、広報誌への掲載、巡回展示、出前講座などを行い啓発に繋げている。						
評価	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い		
		説明	史跡の範囲拡大は、保存管理計画の策定及び緩衝地帯の設定の前提条件である。これらの策定等で、資産(史跡)を取り巻く風土の保全や保存活用が実施できる。また、世界遺産登録への啓発は、生きた歴史教材及び本市の観光資源としての理解を深めることができる。						
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		1	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低いが、改善が見込めない		
		説明	現在、史跡指定拡大の協議を進めているのは広大な藤原宮跡だけで、他の構成資産は指定拡大が行えず事業を進展させるには人員不足である。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		「飛鳥・藤原」登録推進協議会で構成資産の価値の検討を推進し、構成資産の史跡範囲拡大を進める必要がある。史跡の範囲拡大は、世界遺産登録に必要な保存管理計画の策定と緩衝地帯の設定に欠かすことができず、いずれの課題を並行して推進していくことにより、世界遺産登録における本市の役割を果たすことができる。その効果として、構成資産である史跡の活用に留まらない新しい事業を行うことができる。						
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	1	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する			課内優先度
説明		世界遺産「飛鳥・藤原」登録推進協議会による包括的保存計画、世界遺産推薦書原案作成に向けた負担金の増額が必要である。また世界遺産登録に向けた機運醸成のため、今後も継続した啓発事業が必要である。							

事務事業評価表(平成26年度実施事業対象)

(作成日:平成27年5月27日)

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト(任意)) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	藤原宮跡等整備対策事業									
	担当部名	総合政策部	担当課名	世界遺産推進課	課長名	岸本 裕史					
	総合計画の 位置付け	目指す都市像(政策)	5	人と文化がふれあうまち							
		施策	1	文化財の保護と活用							
	予算事業名	藤原宮跡等整備対策事業費									
	事業の開始年度	平成	18	年度	事業の終了予定年度	平成	年度				
	対象	特別史跡藤原宮跡への来訪者			事業の 内容説明	特別史跡藤原宮跡内における買収を実施し、史跡地内の民有地の公有化を図る。特別史跡藤原宮跡内の約6.5万㎡を文化庁より占有し、平成18年度から地元5町の住民で構成される「藤原宮跡整備協力委員会」の協力を得て、春・夏・蓮・秋・朝堂院東ゾーンとして花の栽培を行い、檀原市HPや啓発用ポスター・チラシ等でそれらのPR活動を行うことにより、特別史跡藤原宮跡の知名度向上に寄与するよう努めている。また、檀原市藤原京資料室では藤原宮跡を紹介する展示(藤原京1/1,000模型等)を行い、史跡の重要性について周知・啓発を行う。					
	事業の 目的	国民の貴重な文化遺産として世界遺産委員会事務局の暫定リストに登録された特別史跡藤原宮跡を後世に継承し、また遺産活用として花園整備を行うことにより、遺産の荒廃防止および景観形成・保全に配慮し、来訪者や地域住民が文化遺産に愛着を持てるような整備等を行うことを目的とする。									
	市の関与 の必要性を 評価してく ださい	なぜ市が 関与して いるのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業 2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)							
			説明	当市が推進している世界遺産登録に向け、文化庁もしくは国土交通省が実施する特別史跡藤原宮跡整備基本構想に基づく整備までの間、事業の目的と事業の内容説明に記載した理由により周知・啓発を実施する必要がある。							
やめた 場合の 影響は		1	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い					
		説明	買収された後何ら整備されない土地に対する国による早期の整備要望が強い状況下で、当市が実施する花園整備や列柱設置などを取りやめた場合、土地を放置した状態が続く事となり国による本格整備が前提条件の用地買収に応じない風潮が蔓延する事となり、今後の用地買収交渉に多大な影響を及ぼす事になる。								
D O 実 施	指標の 推移	名称及び単位等			25年度	26年度		27年度	28年度	29年度 (総計目標)	
					実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み	
	成果指標	檀原市藤原京資料室来室者数			11,572	14,500	11,450	14,500	14,500	14,500	
	活動指標①	檀原市HPの更新			35	35	40	35	35	35	
	活動指標②	啓発用ポスター等の掲出、チラシの配布			ポ450 千25,000	ポ450 千25,000	ポ450 千25,000	ポ450 千22,000	ポ450 千22,000	ポ450 千22,000	
	コストの 推移 (単位: 千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算			
		歳出(直接事業費)(a)			23,862	34,734	31,219	19,671			
		歳入 (b)	受益者負担額					155			155
			受益者負担額以外の歳入(補助金等)			11,572	11,457				
		(a) - (b) = 一般財源			12,290	23,277	31,064	19,516			
正職員		従事者数(単位:人)			3.00	3.00	3.00	3.00			
		人件費(c)			18,516	19,500	19,500	19,500			
トータルコスト(a)+(c)			42,378	54,234	50,719	39,171					
単位当 りコスト	計算式等 ()/()										
備考 (これまでの 実績等)											

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	1	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	<p>檀原市藤原京資料室への来室者数、花園の開花時期の問い合わせ電話や雑誌・テレビ等の取材申し込み、旅行者の観光ツアーへの組み入れ、列柱を目にした来訪者の好感触等これら全てが増加傾向にあることから、特別史跡藤原宮跡の周知・啓発への効果が確実に高まっている。</p>							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	<p>世界遺産登録推進と国が策定した「特別史跡藤原宮跡整備基本構想」に基づく整備を早期に進める上で、その前提条件の1つである用地買収を行っていることから、貢献度は高いと考える。</p>							
評価	効率性評価		1	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない			
	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		説明	<p>暫定整備及び檀原市藤原京資料室の運営は、藤原宮跡整備協力委員会に直接経費のみで委託していることや、PRIについても観光拠点への無料掲出を条件に依頼していることから、コスト軽減の余地はない状況である。</p>						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		<p>藤原宮跡の花園のPRを檀原市HP等で行ったことにより、宮跡への来訪者は増加しているが、隣接の藤原京資料室の26年度の来訪者は天候不順が影響し若干の減少に留まった。今後は展示内容の定期的な更新を図り、史跡の重要性だけでなく花園への来訪者にも足を運んでいただけるようPRし、入室者の増加に繋げたい。来訪者が集中する秋のコスモスの時期には、トイレ不足の問題解消のため期間限定でバイオトイレを資料室駐車場に設置し、土日祝に限り臨時駐車場を増設する等の対応を行っている。改修した列柱は、遺構表示の正確さを期し、解説板等の刷新を行い、理解の向上を図る。以上の改善度を今年度も行うことで、花園の認知度アップと花園鑑賞の利便性向上や藤原宮跡への理解度を高めることに繋がり、リピーターや新規来訪者の増加に資すると考える。</p>							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください		2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		C
説明		<p>花園の認知度向上のためイベントでのチラシ配布やのぼりの設置など積極的に行う。整備協力委員会と協働し植栽に関する検討を行い、花園整備の向上を図る。来訪者の利便性は文化庁と引き続き協議の上、臨時駐車場の適切な開放など安全対策等を進め、来訪者増を目指す。今後周辺施設等の整備が必要になる。</p>								

事務事業評価表(平成26年度実施事業対象)

(作成日:平成27年 月 日)

事業の種類を選択してください。⇒ (内部管理・維持管理) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	埋蔵文化財発掘調査事務事業							
	担当部名	生涯学習部	担当課名	文化財課	課長名	竹田正則			
	総合計画の 位置付け	目指す都市像(政策)	5	人と文化がふれあうまち					
		施策	1	文化財の保護と活用					
	予算事業名	緊急発掘調査等事業費、民間受託等発掘調査事業費							
	事業の開始年度	平成	58	年度	事業の終了予定年度	平成	年度		
	対象	埋蔵文化財		事業の 内容説明	・文化財保護法に基づく手続きに係る事務処理。 ・土木行為者に埋蔵文化財保護についての理解と協力を求める。 ・発掘調査、試掘確認調査、立会調査の実施。 ・発掘調査出土資料の整理及び報告書刊行。				
	事業の 目的	埋蔵文化財の保護							
	妥当性 評価	なぜ市が 関与して いるのか	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業						
			2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)						
市の関与 の必要性を 評価してく ださい	やめた 場合の 影響は	説明							
			1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い			
D O 実 施	指標の 推移	名称及び単位等		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度 (総計目標)	
				実績	計画	実績	見込み	見込み	
	成果指標								
	活動指標①								
	活動指標②								
	コストの 推移 (単位: 千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算		
		歳出(直接事業費)(a)		37,820	97,840	57,778	75,094		
		歳入 (b)	受益者負担額	18,938	92,080	14,930	64,957		
			受益者負担額以外の歳入(補助金等)	14,581	9,043	22,997	10,113		
		(a) - (b) = 一般財源		4,301	-3,283	19,851	24		
正職員		従事者数(単位:人)	3.00	3.00	3.05	3.10			
		人件費(c)	18,516	19,500	19,825	20,150			
トータルコスト(a)+(c)		56,336	117,340	77,603	95,244				
単位当 りコスト	計算式等 ()/()								
備考 (これまでの 実績等)									

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	1	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	設計の見直しや発掘調査により埋蔵文化財の保護が図られている。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	発掘調査の成果を報告書として刊行し、埋蔵文化財の公開と活用に努めている。							
評価	効率性評価		2	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低いが、改善が見込めない			
	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		説明	埋蔵文化財包蔵地における、建築、土木行為等の計画立案時点から、奈良県埋蔵文化財取扱基準に準拠する埋蔵文化財保護の協議を積極的に行い、試掘調査及び本発掘調査の件数を軽減する。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		土木行為等に伴う発掘調査は、人員不足のため迅速に実施するのが困難な状況であるため、職員を増員していく。当市のインフラ整備が早期に実現され、民間資金が当市に投入される。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する			課内優先度	
説明			4 廃止又は休止する	5 完了する						
		説明	法定受託事務及び権限委譲事務のため、事務の内容・量に大幅な改変はない。							

事務事業評価表(平成26年度実施事業対象)

(作成日:平成27年 月 日)

事業の種類を選択してください。⇒ (内部管理・維持管理) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	文化財保護管理活用事業							
	担当部名	生涯学習部	担当課名	文化財課	課長名	竹田正則			
	総合計画の 位置付け	目指す都市像(政策)	5	人と文化がふれあうまち					
		施策	1	文化財の保護と活用					
	予算事業名	報償給与費、文化財保護総務費、史跡等保存整備事業費、八木札の辻交流館管理運営費							
	事業の開始年度	平成	年度	事業の終了予定年度	平成	年度	年度		
	対象	指定文化財		事業の 内容説明	文化財審議会第1部会において、史跡整備における実施設計に関し、提言をもらう。指定文化財の修理に要する経費の補助を行う。公有化した史跡の草刈・倒木処理等維持管理を実施する。八木札の辻交流館の受付人員の配置や清掃等施設管理業務の契約を行い、適切に管理を行う。文化財の活用と保護の啓発のため、職員による出前講座等への講師派遣を行う。				
	事業の 目的	市指定文化財への指定や、指定文化財の所有者・管理者が行う維持に係る経費を補助し、文化財の適切な保全と次世代への継承を目的とする。更に整備に向けた史跡の公有化を進め、公有化済みの史跡は適切に管理を行い、整備を実施する。また、文化財の普及啓発を通じて、文化財愛護の精神を高める。							
	妥当性 評価	なぜ市が 関与して いるのか	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業						
			2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)						
市の関与 の必要性を 評価してく ださい	やめた 場合の 影響は	説明							
		1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い				
D O 実 施	指標の 推移	名称及び単位等		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度 (総計目標)	
				実績	計画	実績	見込み	見込み	
	成果指標	史跡丸山古墳公有化(%)		73	78	78	78	82	
	活動指標①								
	活動指標②								
	コストの 推移 (単位: 千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算		
		歳出(直接事業費)(a)		62,849	148,388	138,792	130,470		
		歳入 (b)	受益者負担額	90	51	38	44		
			受益者負担額以外の歳入(補助金等)	29,139	82,911	79,339	79,889		
		(a) - (b) = 一般財源		33,620	65,426	59,415	50,537		
正職員		従事者数(単位:人)	2.15	1.90	1.90	2.20			
		人件費(c)	13,270	12,350	12,350	14,300			
トータルコスト(a)+(c)		76,119	160,738	151,142	144,770				
単位当 りコスト	計算式等 ()/()								
備考 (これまでの 実績等)									

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	入念な史跡等の維持管理及び活用等を実施することにより、指定文化財への見学者が増加する。更には史跡等文化財の毀損が発生した際にも、適正な維持管理を行っていただければ被害の早期発見につながり、そこに係る経費の縮小に反映されると思われる。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	歴史事象を実際に体感できる史跡等文化財を良好に維持管理及び活用することで、市民が文化財を身近に感じる場として利活用する機会が増え、文化財に対する愛護や保護の意識の高揚につながる。							
評価	効率性評価		2	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない			
	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		説明	史跡の公有化が進むことにより管理に係る経費は増加する。しかし適切に維持管理を行うことにより、文化財の劣化や損傷を最小限に抑えることができ、修理に係る経費も削減することができる。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		平成24年度に創出された史跡等整備活用補助金などを積極的に活用する事により、市単独経費の割合を軽減していく。 また地域住民と協働で史跡の環境維持を行う事により、指定文化財等の良好な維持管理が図る事ができると共に、地域住民の文化財愛護の精神を高める事ができる。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください		1	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		
説明		早期に史跡指定地等を公有化し、整備事業を推進して文化財の活用の促進を図ると共に、文化財保護の啓発活動をより一層進めていく。								

事務事業評価表(平成26年度実施事業対象)

(作成日:平成27年 5月26日)

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト(任意)) 事業

PLAN
計画

事務事業名	博物館運営事務事業					
担当部名	生涯学習部	担当課名	歴史に憩う檀原市博物館	課長名	竹田 正則	
総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	5	人と文化がふれあうまち			
	施策	1	文化財の保護と活用			
予算事業名	博物館管理運営費、展示事業費					
事業の開始年度	昭和	53	年度	事業の終了予定年度	平成	年度
対象	入館者			事業の内容説明	・特別展や企画展等の活動を実施する。 ・出土した遺物等を適切な環境で保管・管理する。	
事業の目的	入館者に快適な見学空間を提供するため施設を適切に管理・運営し、資料の展示・保存等を通して文化財の保護・活用を図る。					
妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業			
		2	2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)			
市の関与の必要性を評価してください	やめた場合の影響は	説明	本市の歴史・文化財を紹介し、市民等へ文化財への理解を促すことは行政の責務である。			
		2	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い
		説明	市民が本市の歴史・文化財に触れ、理解する機会を失うことになる。また、国民の財産である文化財に対する保護の精神が希薄となり、本市の文化財が消滅し、本市の資産としての歴史遺産を失うことになる。			

DO
実施

指標の推移	名称及び単位等	25年度	26年度		27年度	28年度	29年度 (総計目標)
		実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み
成果指標	入館者数		10,000	10,236	10,000	10,000	10,000
活動指標①	展覧会開催数		4	4	4	4	4
活動指標②							
コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算	
	歳出(直接事業費)(a)		110,381	33,678	29,966	28,474	
	歳入(b)	受益者負担額		3,300	2,295	3,023	
		受益者負担額以外の歳入(補助金等)					
	(a) - (b) = 一般財源		110,381	30,378	27,671	25,451	
	正職員	従事者数(単位:人)	2.45	2.55	2.55	2.35	
		人件費(c)	15,121	16,575	16,575	15,275	
	トータルコスト(a)+(c)		125,502	50,253	46,541	43,749	
単位当たりコスト	計算式等 (トータルコスト) / (成果指標)		5	4	4		
備考 (これまでの実績等)							

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	本市の歴史を体感・体験しながら学ぶことのできる博物館として、市民をはじめ学校教育等のニーズに寄与している。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	文化財に関する情報を広く発信できるだけでなく、観光の拠点としての性格も持っているため、入館者に本市の歴史や文化財と触れ合う場を広く提供することができる。							
評価	効率性評価		1	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低いが、改善が見込めない			
	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		説明	入札等の契約規則に則った予算執行を実施しているために、コスト低減できない。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		重要文化財の展示を含めた年4回の展覧会とその関連行事や、体験型学習イベントを実施する。 展覧会の開催による入館者の増加によって、本市の歴史・文化財への理解と、文化財に対する啓発が進むため、郷土愛を育み、文化財への愛護や保護の意識を高めることができる。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください		1	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度	B	
		説明	予算を確保し、重要文化財の陳列も含めた展覧会のほか、講演会や体験講座等のイベントの開催を拡充する。							